

反差別の困難さについて

同和教育体験者から

ネトウヨは当たり前”現象”である

氷川渉（ひかわ わたる）氏 講演会

日時 2015年2月28日(土)

講演会 18:00~19:30

懇親会 19:45~21:30

場所 討論 Bar “シチズン”

恵美須町駅から徒歩1分

〒556-0005 大阪府大阪市浪速区日本橋5丁目14-20

06-6537-7672

参加費

講演会 1,500円(ソフトドリンク1杯付き。アルコール飲料やケーキセットの場合200円追加)

懇親会 3,000円(フリードリンク)

任意でお店「シチズン」に寄付をお願いします。

食べ物は持ち込みOK。

過去に持ち込みをした食べ物をお客様どうし分け合いっこをしてきたりしました。ナッツやドライフルーツやおかきやたこ焼き、オードブル盛り合わせ、などなど。事前に相談も可。幹事としては、お客様には事前にできるだけ予約をしていただいて、人数を確認し上で幹事をしたいです。

店には有料メニューとしてケーキ、パスタ、カレー、ピラフ等がありますが、一人でやりますので一度に大人数が注文をされると大混乱になりますので、事前予約か、時間にゆとりをもって少人数ずつ注文なさるのなら助かります。

企画・幹事

のら猫の手

申し込み用連絡先

noraneconote@gmail.com

SKYPE

[noraneconoteQQQ](https://www.skype.com/ja/contacts/noraneconote)

skypeで電話から受ける番号 (050) 5539-9639

告知用 blog

<http://mybookpublishevent.blog.fc2.com/>

USTREAM

<http://ustre.am/zQ78>



氷川渉（ひかわ わたる）氏 プロフィール

1965年 大阪市生まれ

1972年 同和教育モデル校と言われる小学校入学

実家は被差別部落と川を挟んで300mほどに位置

同級生には当然被差別部落の子がいた

バリバリの同和教育に対する違和感

生まれ育った町の周辺には朝鮮人街があった

街にも在日の方がいて、同級生にもいた

1978年 部落解放運動の「成果」と言われる新設の地元

中学に進学することが嫌で、私立中学に進学

1983年 某大学に進学、学生運動と関わる。運動に対す

る違和感を持ちつつも(持っがゆえに)マルクスをはじめとする左翼理論を学ぶ。近代思想の持つ差別性について、同和教育の「おかげで」気づく

2013年 『指導という名の欲望』電子本として出版される。

2014年 出版記念講演会(討論 Bar “シチズン”で)

<http://youtu.be/7i3dtLcBoRw>

氷川渉氏の魅力

氷川渉氏は、過去に左翼体験を経た。

それから共産党批判の電子書籍『指導という名の欲望』を発表。

「よほどの覚悟がない限り、左翼には関わらないほうがいい」と主張。

左翼や人権派の気持ちも分かるし、右翼の気持ちもわかる論客。

2014年に出版記念講演会を左翼の店シチズンでした。

在特会を中心とする「行動する保守」が街宣やデモで北朝鮮や韓国や在日コリアンに対して「死ぬ」「殺せ」大虐殺する」「チョンコ」「ごきぶり」発言。書店では最近、中国や韓国への批判的な本、「嫌韓本」のコーナーができてきた。

「ヘイトスピーチ」問題に対抗する方々が立ち上がった。

差別反対の方々が本屋に対して「嫌韓本」の撤去依頼をした。

ところが氷川渉氏が、室谷克実氏『悪韓論』『呆韓論』を「若干悪意を感じるにせよ、ビジネス経験から「至極ごもつとも」と思いました」と擁護した。国際ビジネスマンにとって、事前に外国人に関する遠慮のない露骨な情報を得て心の準備ができたことが重要だった。

外国人に関して正直な基礎知識がないのに、実際に接するとトラブルになり「韓国人許さん！」となる。在特会みたいに暴走したり共感する。

氷川氏はかつて韓国とのビジネス経験で愚痴をこぼすと、人権派や左翼から「差別だ」と批判をされたけど。在特会桜井誠氏と長時間、話し合えた。(今は気の毒なことになってると同情)。

氷川渉氏【ただ、「嫌韓本」は、もっとドライで実用的になって欲しいなあ、と。】

今はまだ劣情を刺激する炎上商法だらけで、見識のあ

る方々の事前の情報収集目的や実際にトラブル経験のあった方々の共感と慰撫としての本はまだまだ選択肢が少ない問題はある。

★人権派が外国の方々に遠慮して露骨なことは書かない紹介本か

★下劣な炎上商法か

選択肢は少ない

「極悪人が、何も知らない素人に、韓国人や中国人への嫌悪差別を洗脳する」とだけとらえるのではなく。実際に嫌な思いをした国際ビジネスマンの需要もある。外国批判の本のコーナーを作る本屋に圧力をかけて撤去依頼をするのではなく。どこに魅力があるかを分析して。クソミソ状態から識別をして、今後はまともな情報収集の本を選別し紹介し、下劣なのの上減少させる方法も考えるべきでは？

その是非についても色々と語り合えるといいなと思います。

氷川氏は、過去の同和教育のトラウマ体験から、最近の反差別運動の混迷に対して助言もできる論客です。

氷川氏は最初は差別反対問題の講演会の依頼を拒否。

「レイシスト以上に、反差別運動に近寄りたくない、係りたくない」

でもついに承諾。

「差別運動に対する批判を恐喝的に封じたこと、あるいは違和感・嫌悪感と差別をごっちゃにした態度が反差別運動を腐らせた。その辺の問題を講演で言えたらいい」

「ハーレント、カール・シュミット、カント、ジジエクなどなど、リベサヨが嫌いそうな人々の書物を見返していますWW」

今、注目の論客です。